

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1 年次	1 単位	選択	講義
担当教員				
佐藤友哉				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学	数理・データサイエンス・AI教育科目	

授業概要	コンピュータを利用することは医療現場においても必要な能力となっている。その能力を養うために必要な基本知識について学習する。広く浅くさらに最近の情報関連の内容について修得する。
授業計画	<p>第1回 インターネットの活用 予習：テキストの12ページから37ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：同ページ内で強調された単語の意味をまとめ、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第2回 情報倫理とセキュリティ 予習：テキストの38ページから59ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第3回 わたし達が生きる情報社会 予習：テキストの60ページから85ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第4回 情報やメディアに関する技術 予習：テキストの86ページから113ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第5回 ネットワークやインターネットに関わる技術 予習：テキストの114ページから137ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第6回 ハードウェアに関わる技術 予習：テキストの138ページから159ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第7回 ソフトウェアに関わる技術 予習：テキストの160ページから183ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第8回 コンピュータの歴史と現代のIT業界 予習：テキストの184ページから195ページを一読し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>試験 予習：授業内容と小テストの内容を復習し、テキストの196ページから201ページの『内容のチェックリスト』で試験に備えて勉強しておく。 復習：試験で特に理解不十分であった項目を分析し、質問などにより理解に努める。</p> <p>◆予習・復習の時間◆ 初めて耳にする情報系の用語も多いため予習が欠かせない。 そのため予習には毎回2時間程度、全体では16時間を要し、 復習では、細かに説明されたキーワードを中心に1時間程度、全体では8時間を使って反復し 定期試験に備える。</p>
授業の目的・到達目標	<p>情報化した現代社会を上手に生きる基礎を養成することを目的とする。 情報化社会についての以下の項目を理解することを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットの活用 2. 情報倫理とセキュリティ 3. わたし達が生きる情報社会 4. 情報やメディアに関する技術 5. ネットワークやインターネットに関わる技術 6. ハードウェアに関わる技術 7. ソフトウェアに関わる技術 8. コンピュータの歴史と現代のIT業界
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、学内ネットワークの管理・運営および情報リテラシー教育に関する実務経験を活かし、情報科学の基礎知識についての講義を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間を様々な側面を持つ存在の統合とし包括的に捉えることができる人材育成」につながる。
教科書	「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2023」 監修：奥村晴彦、佐藤義弘、中野由章 出版社：日経BP社 ISBN：978-4-296-07056-5
参考書	
評価基準及び成績評価方法	毎回授業の最後に実施する小テストと試験で評価し、それぞれ35：65の比重で配点し総合評価が60点以上を合格とする。
達成度の伝達	小テストの返却と試験結果の公表によって行う。
資格情報	

メッセージ・オ フィスアワー	月曜日 3・4コマ目
履修登録条件	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	必修	講義
担当教員				
佐藤友哉				
人間の理解と科学的思考科目群		自然科学	数理・データサイエンス・AI教育科目	養護教諭一種免許状

授業概要	科学的な根拠に基づいた看護を提供するためには、コンピュータ及びインターネットを活用が不可欠である。文献検索を含めた様々な情報をまとめるツールとしてコンピュータを活用する基本となる、文書作成、情報収集、表計算、プレゼンテーションソフトウェアの利用方法について修得する。
授業計画	<p>第1回 情報化社会とリテラシー 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第2回 数理・データサイエンス・AI テキストから少し離れ、数理・データサイエンス・AIの基礎について 予習：インターネット等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第3回 Wordによる文書処理（スタイル、脚注） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第4回 Wordによる文書処理（SmartArt、表） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第5回 Wordによる文書処理（描画キャンパス、ヘッダー・フッター） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第6回 Wordによる文書処理（段組み、数式）（課題1（タッチタイピング）および課題2（Word）） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第7回 Excelによる表計算とデータベース（オートSUM、ブックの保存） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第8回 Excelによる表計算とデータベース（シートの書式、関数） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第9回 Excelによる表計算とデータベース（グラフ、応用（経営分析）） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第10回 Excelによる表計算とデータベース（データ分析、データベース機能）（課題3） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第11回 PowerPointによるプレゼンテーション（ドラフト作成用紙） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第12回 PowerPointによるプレゼンテーション（スライド作成） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第13回 PowerPointによるプレゼンテーション（アニメーション、発表準備）（課題4） 予習：今回の内容を教科書等で調べ、疑問点があればノートに書いておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第14回 プレゼンテーション：発表1 予習：発表のための練習を行っておく。 復習：今回の内容を教科書やノート等で復習し、不明な点は質問するなどして解決しておく。</p> <p>第15回 プレゼンテーション：発表2とまとめ 予習：すべての課題を確認し、疑問点があればノートに書いておく。 復習：課題の中で、特に理解不十分であった項目を分析し、質問などにより理解に努める。 ◆アクティブ・ラーニング◆ 課題について作成したPowerPointの資料を基に、指定された時間内でプレゼンテーションを1回行う。 ◆予習・復習の時間◆ 予習時間と復習時間は、合わせて45時間程度必要。</p>
授業の目的・到達目標	コンピュータとインターネットの利用と仕組みについて理解する。そして、コンピュータをツールとして活用する基本となる、文書作成、情報収集、表計算、プレゼンテーションの利用方法について修得する。
実務経験に基づく知識の伝達	担当教員は、学内ネットワークの管理・運営および情報リテラシー教育に関する実務経験を活かし、リテラシーおよび数理・データサイエンス・AIについて講義・一部演習を行う。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する。」から配置した、人間の理解と科学的思考科目群の教養科目である。DPの「人間を様々な側面を持つ存在の統合とし包括的に捉えることができる人材育成」につながる。

教科書	「Microsoft Office 2021を使った情報リテラシーの基礎」 著者：切田節子、新聖子、山岡英孝、乙名健、長山恵子 出版社：近代科学社 ISBN：978-4-7649-0655-6
参考書	
評価基準及び成績 評価方法	タッチ・タイピングと課題提出 (Word, Excel, PowerPoint) と 1 回の発表によって評価する。評価点が 60 点以上で合格とする。ただし、すべての課題提出が合格することが必要条件である。
達成度の伝達	課題提出と発表内容によって確認する。
資格情報	
メッセージ・オ フィスアワー	月曜日 1・2 コマ目
履修登録条件	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
橋本 哲、森 慶輔				
専門基礎科目群	社会と医療	数理・データサイエンス・AI教育科目		

授業概要	<p>保健医療分野の専門教育に必要な基礎的学力、思考力、表現力ならびにデータに基づく判断力などを修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験データや事実を表現するデータから、現実を把握し、判断能力を養うためのデータ解析の基礎的部分の学習を行う。 ・不確定な現象を表現する確率分布の理解と不確定な現象から収集されたデータの解析を通して、集団の規則性の探究をして行く。 ・統計的データ解析の基礎を身に付ける。 			
授業計画	第1回	<p>疾病頻度の指標（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第3章「疾病頻度の指標」。 ・講義内容は、有病率、罹患率。 ・小テストの出題内容は、主に第1回で学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（有病率、罹患率）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（有病率、罹患率）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>		
	第2回	<p>疾病頻度の指標（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第3章「疾病頻度の指標」。 ・講義内容は、死亡率、致命率、指標の相互関係、疾病の予防と指標の変化。 ・小テストの出題内容は、主に第2回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（死亡率、致命率、指標の相互関係、疾病の予防と指標の変化）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（死亡率、致命率、指標の相互関係、疾病の予防と指標の変化）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>		
	第3回	<p>疾病頻度の指標（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第3章「疾病頻度の指標」。 ・講義内容は、死亡率の年齢調整。 ・小テストの出題内容は、主に第3回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（死亡率の年齢調整）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（死亡率の年齢調整）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>		
	第4回	<p>保健統計調査（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第4章「保健統計調査」。 ・講義内容は、人口静態統計、人口動態統計、出生率。 ・小テストの出題内容は、主に第4回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（人口静態統計、人口動態統計、出生率）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（人口静態統計、人口動態統計、出生率）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>		
	第5回	<p>保健統計調査（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第4章「保健統計調査」。 ・講義内容は、死亡率、死因統計、死産と乳幼児死亡率。 ・小テストの出題内容は、主に第5回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（死亡率、死因統計、死産と乳幼児死亡率）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（死亡率、死因統計、死産と乳幼児死亡率）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>		
	第6回	<p>保健統計調査（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第4章「保健統計調査」。 ・講義内容は、婚姻と離婚、平均寿命、国民生活基礎調査、患者調査、その他の保健統計調査、情報処理。 ・小テストの出題内容は、主に第6回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（婚姻と離婚、平均寿命、国民生活基礎調査、患者調査、その他の保健統計調査、情報処理）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p>		

第7回	<p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（婚姻と離婚、平均寿命、国民生活基礎調査、患者調査、その他の保健統計調査、情報処理）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストと中間試験に備える。 ◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>中間試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間試験問題の主な出題範囲は、教科書の第3章と第4章。
第8回	<p>スクリーニング（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第5章「スクリーニング」。 ・講義内容は、スクリーニングの意味と意義、スクリーニングの条件、偽陽性率と偽陰性率。 ・小テストの出題内容は、主に第8回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（スクリーニングの意味と意義、スクリーニングの条件、偽陽性率と偽陰性率）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（スクリーニングの意味と意義、スクリーニングの条件、偽陽性率と偽陰性率）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>
第9回	<p>スクリーニング（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第5章「スクリーニング」。 ・講義内容は、妥当性（感度、特異度）と信頼性、陽性反応的中度と陰性反応的中度。 ・小テストの出題内容は、主に第9回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（妥当性（感度、特異度）と信頼性、陽性反応的中度と陰性反応的中度）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（妥当性（感度、特異度）と信頼性・陽性反応的中度と陰性反応的中度）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>
第10回	<p>スクリーニング（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第5章「スクリーニング」。 ・講義内容は、陽性反応的中度と陰性反応的中度（続き）、スクリーニングレベルの変動による影響。 ・小テストの出題内容は、主に第10回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（陽性反応的中度と陰性反応的中度（続き）、スクリーニングレベルの変動による影響）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（陽性反応的中度と陰性反応的中度（続き）、スクリーニングレベルの変動による影響）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>
第11回	<p>統計学の基礎（その1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第7章「統計学の基礎」。 ・講義内容は、統計データの種類とグラフ、データの代表値。 ・小テストの出題内容は、主に第11回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（統計データの種類とグラフ、データの代表値）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（統計データの種類とグラフ、データの代表値）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>
第12回	<p>統計学の基礎（その2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第7章「統計学の基礎」。 ・講義内容は、データの散布度、正規分布の特徴、偏差値。 ・小テストの出題内容は、主に第12回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（データの散布度、正規分布の特徴、偏差値）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（データの散布度、正規分布の特徴、偏差値）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>
第13回	<p>統計学の基礎（その3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第7章「統計学の基礎」。 ・講義内容は、相関係数と回帰係数、推定の考え方、検定の考え方。 ・小テストの出題内容は、主に第13回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（相関係数と回帰係数、推定の考え方、検定の考え方）対応部分を読んでおき、何を学ぶのかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容（相関係数と回帰係数、推定の考え方、検定の考え方）対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習（頁の対応有；ドリル）に取り組み、小テストに備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p>
第14回	<p>統計学の基礎（その4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習範囲は、教科書第7章「統計学の基礎」。 ・講義内容は、χ^2（カイ2乗）検定・t検定。 ・小テストの出題内容は、主に第14回までに学習したことなど。 <p>【予習】教科書の講義内容（χ^2（カイ2乗）検定・t検定率）対応部分を読んでおき、何を学ぶ</p>

	<p>のかを予め把握しておく。難易度が高そうな内容箇所を特定するだけでも、十分予習の意義・効果はある。</p> <p>【復習】授業ノートを読み直し、教科書の講義内容 (χ^2 (カイ2乗) 検定・t検定率) 対応部分で再確認する。授業ノートに、気づいたことを書き加えることも推奨する。章末の問題演習 (頁の対応有;ドリル) に取り組み、小テストと学期末試験に備える。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>第15回 まとめと演習 ・教科書第5章「スクリーニング」、教科書第7章「統計学の基礎」。 ・まとめと演習。</p> <p>◆予習・復習時間◆ 3時間を目安に。</p> <p>第16回 学期末試験 ・学期末試験の主な出題範囲は、教科書の第5章と第7章。ただし、この範囲の基礎になっている教科書の第3章と第4章の学習内容なども、出題することがある。</p>
授業の目的・到達目標	広汎な知識体系への関心を喚起し、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を図るとともに、保健医療の専門教育に必要な基礎的学力、思考力、表現力ならびにデータに基づく判断力などを修得させる。
実務経験に基づく知識の伝達	
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する」から配置された専門基礎科目群の科目である。「科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p> <p>【授業時間】90分×15回。 【予習・復習の時間】3時間×15回。</p>
教科書	浅野嘉延著『看護学生のための 疫学・保健統計 改訂3版』南山堂 (2018)
参考書	『国民衛生の動向』厚生統計協会
評価基準及び成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 約40% ・中間試験と学期末試験 約60%
達成度の伝達	・各回の小テストは、受付終了時に、達成度を伝達します。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験の合格を視野に入れます。 ・専門分野への深い理解に伴って、統計学は活かされます。各専門分野の勉強を立脚点として、統計学の適切な運用ができるようになることを目標とします。因みに、「統計学は最強の学問である」との主張を見聞きすることすらあります。 ・小テストにおいては、電卓抜きの手計算と概算の能力 (適切な四捨五入) を重視します。 ・教室での対面形態の講義・小テスト・中間試験・学期末試験が実施できる場合は、学籍番号順の座席指定をします。 ・中間試験・学期末試験では、通信機器 (スマホ、タブレット端末、など) の利用を認めません。身に付けての所持も認めません。
履修登録条件	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年次	1単位	選択	講義
担当教員				
中村史江				
看護専門科目群	看護専門分野	基礎看護学	数理・データサイエンス・AI教育科目	

授業概要	看護人間工学は医療看護の現場における作業の効率と安全性ならびに快適性に関する科学的理論とその実践方法について学ぶ科目である。作業の効率や安全性に関する人間工学の基礎理論として作業を人間・機械系の中で捉え、人間工学的視点から研究された結果から看護ケアを考えていく。これによって、看護従事者の疲労や看護ミスを軽減し、質の高い看護を実現する。
授業計画	<p>第1回 看護人間工学のあらまし 予習：教科書 p.10～p.39、p.108～p.134までを読む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第2回 人間の構造と看護姿勢・動作 予習：教科書 p.52～p.70までを読む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第3回 負担軽減のための基礎力学 予習：教科書 p.71～p.107までを読む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第4回 医療用電子機器とフィードバック制御 予習：教科書 p.40～p.51、p.135～p.144までを読む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第5回 バリアフリーとユニバーサルデザイン 予習：教科書 p.145～p.153までを読む。 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第6回 看護人間工学における就寝環境 予習：テーマについて必要な情報収集をおこなう 復習：理解できなかった事柄は自己学習、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問したオフィスアワーを利用し理解を深める。</p> <p>第7回 病院における看護人間工学の実際1 予習：第1回で説明したテーマについて調べておく 復習：グループワーク内容をまとめ、各自理解できるよう復習する。</p> <p>第8回 病院における看護人間工学の実際2 予習：プレゼンテーションを準備し講義に望む。 復習：プレゼンテーションの内容から、看護人間工学とはどのようなことかを理解できるよう復習する。 ◆アクティブラーニング◆ 講義6回、グループワーク1回、プレゼンテーション1回 ◆予習・復習の時間◆ 予習・復習時間 5時間</p>
授業の目的・到達目標	マンマシンシステムの視点で人間をとらえ、人間工学の基本的な概念、理論をベースに、看護ケアを考察していく。 ①人間の精神・生理機能の測定と評価がわかる。 ②動作・作業の測定と評価がわかる。 ③環境と人間の整合性がわかる。 ④看護ケアに発展して考察できる。
実務経験に基づく知識の伝達	看護ケアの効率や安全性に関する基礎理論踏まえた看護人間工学の実践的活動を通して、医療看護の現場における作業の効率と安全性ならびに快適性に関する科学的理論とその実践方法について講義する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	看護の環境と人間工学 小川鑛一著 株式会社サイオ出版
参考書	看護の人間工学 大河原千鶴子、酒井一博編集 医歯薬出版株式会社
評価基準及び成績評価方法	定期試験（50％）、プレゼンテーション（50％）
達成度の伝達	プレゼンテーションについて講評する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	本講義は看護技術、医療安全管理の科目と深く関連があります。看護ケアのエビデンスになるよう学修しましょう。

履修登録条件	
--------	--